

核兵器禁止条約発効！私たちは『核』にどう向き合うか

ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・福島を一堂に展示した日本初の写真展



小学生と教師など 39 名が平和学習の一環として来場しました

写真展は、写真家の森住卓さん、豊崎博光さんと、ビキニで核被災した元漁船員を撮影した岡村啓佐さんの作品を中心に
①原爆と人間②核実験と人間 I・II③
 原発と人間、の三テーマでいまだに核被災が続いている日本の姿を訴えました。
 また、展示物ではノーベル平和賞メダルと賞状の他、第五福竜丸展示館からガイガーカウンター、死の灰（レプリカ）、67年前に亡くなった久保山愛吉さんの子どもたちに、高知の子どもたちが届けた励ましの手紙など展示しました。



「日本が4回も核被害に遭ったことがよく分かった」と参加者の感想



ノーベル平和賞メダルと賞状

67年前の手紙と再会

久保山愛吉さんの娘さんに書いた励ましの手紙を第五福竜丸展示館からお借りし今回展示しました。最終日にご本人の豊島直樹さんが名乗り出られました。



(写真は本人と手紙)

久保山さん
 ばくたちはラゴオで久保山さんの
 お父さんのなくたかられたのを聞いて
 泣きました。ばくたちは水ばくを止め
 ても、もうようようにみんなで力を合せて
 運動しようと思いましたが、
 お父さんがなくなられても元気に
 がんばろうして下さい。
 さようなら

豊島直樹さん（75歳）談

「小学二年の時ですね。この字は間違いなく私の字です。このころ、子どもがこんな考え方を持っているわけじゃないので、やはり戦後の民主教育と平和運動に力を入れていた先生の影響も大きかったと思います。担任の先生は確か「まどか」という優しい女の先生でした。クラスの学級委員をやっていたと思うので、ハガキは代表で書いたものだと思います。原爆のことや、水爆のキノコ雲のことが強烈に今も残っているので、当時の先生は平和教育に力を入れ、悪いことは悪い、そんな教育をしてくれていたことを感じます。

67年前の自分に出会って、私の生きざまの素がこの時にあったのだとあらためて分かりました。」